

八幡浜市障害者施設いきいきプチファームの指定管理者候補者について

施設所管課（社会福祉課）より施設の概要と指定管理者候補者の説明

※現管理者である社会福祉法人 和泉蓮華会（以下「和泉蓮華会」）施設関係者同席

○非公募とする主な理由

- ・平成 14 年度の開設から社会福祉法人和泉蓮華会に運営業務を委託してきた経緯と過去の実績を総合的に判断して、これまでも非公募で指定管理者を選定しており、今回も非公募により和泉蓮華会を引き続き指定管理者としたいと考えている。
- ・施設の利用者は、環境の変化に対する適応が苦手で、些細な変化が精神的に大きな負担となる場合がある。指定管理者が長い年月をかけて築いてきた利用者やその家族との信頼関係は変えがたいものであり、特に相談支援事業の際に行ってきたカウンセリングでの情報の蓄積は貴重な財産となっている。そのため、利用者に質の高い安定したサービスを継続的に提供するには、事業者の変更や職員の交代による環境の変化を可能な限り回避することが望ましいと考えている。
- ・指定管理料の設定がないことから、公募による指定管理料の節減などのメリットを生かしくい施設である。

【主な意見・質疑】

委員：生活介護の定員を 10 名から 16 名に、就労継続支援 B 型の定員を 10 名から 24 名へと増やしている。現在の職員数が 17 名とあるが、事業の定員増に伴い職員は何名くらい増員したか。

所管課：以前は就労移行支援のサービスを提供していたが、そのニーズが減り、代わりに生活介護と就労継続支援 B 型のニーズが高まってきた。就労移行支援を廃止し、職員を生活介護と就労継続支援 B 型に振り分けて利用者のニーズに対応することとした。職員数自体に変更はない。

委員：今は色々なところでマンパワー不足が言われているが、大丈夫か。

所管課：今のところは問題ない。

委員：「八幡浜市が指定管理者に支払った給付費及び補助金の額」は、国・県にならった補助率で支払ったものか。別途、市が上乘せしているものはあるのか。

所管課：別途上乘せしているものはない。

委員：就労継続支援 B 型の収支が、令和 3 年度の赤字からから 4 年度には黒字と大幅にアップしているが、何か原因があるのか。

和泉蓮華会：令和 2 年度から 3 年度に関しては、利用者数が著しく減少した。それと合わせて、人材確保のための人件費が増え、収支が落ちた。これらも踏まえ職員配置を検討し、令和 4 年度はコロナ禍ではあったが、利用者を増加することができたことと、前年度よりも人件費を抑えることができたことからプラス収支となった。

委員：災害時の体制、計画はどのようになっているか。

和泉蓮華会：防災については計画を細かく作成しており、月に一度、風水害、地震、津波、火災、原子力と、それぞれに訓練を重ねている。特に風水害や津波については 2 階以上に垂直に移動

することを大事にしている。施設前に川があるので、他の施設に移動することは厳しい。やむを得ないときは、保健センターやJAへの避難という話をさせてもらっているが、なるべく施設内での避難を考えている。備蓄品についても様々なものを備蓄しており、しばらくの間は安全に過ごしてもらえよう努めている。

委員：生活介護事業や就労継続支援B型事業が、施設の事業のメインだと思う。これらについては年度別利用者数の推移でも増えているが、計画相談支援、障害児相談支援事業は少し減っている。どのような要因があったのか。

所管課：当初、計画相談支援の職員が2名いたが1名に減った。2名いた時には、プチファームの利用者以外の計画も作っていた。職員が1名になってしまったので、プチファームの利用者については引き続き計画を作っているが、利用者以外は他の事業者を受けていただいた関係で人数が減っている。

委員：ちょうどコロナ感染対策の時期に重なってしまったが、苦勞した点があれば教えて欲しい。

和泉蓮華会：昨年度は八幡浜市においても感染が拡大し、施設内で感染しないよう極力注意はしてきたが、やはり持ち込むことになってしまった。クラスターが発生しないよう施設を一時休所させてもらうこともあったが、家庭にすることが難しい利用者もいるので、感染対策を徹底しながら受け入れてきた。まずは職員が感染対策を徹底し、施設内の消毒もしっかり行うことで安全に受け入れできるよう努めている。

【結論】

そのほかに意見はなく、「社会福祉法人和泉蓮華会」を指定管理者候補者とすることについて異論は無いということでした。